

## 松戸PJパートナーワークショップ

# 松戸を最後まで 元気でいられる街に



「松戸プロジェクト」では、市民の皆さんにこの「プロジェクト」をより理解していただくために、「松戸を最後まで元気でいられる街に」をテーマに2022年8月から10月にかけて3回にわたりワークショップが開催されました。

第1回ワークショップは、8月29日(月)に、明市民センターで開催されました。参加者は一般の方、市地域包括ケア推進課の職員、プロジェクトパートナーの計19名でした。職員やパートナーもその立場を離れて同じ立場で、「松戸を最後まで元気でいられる街に」するためのアイデアを4グループに分かれて話し合いました。挙げられたアイデア(あるいは、課題)の抜粋は以下の通りです。

1. 豊かに過ごせる環境整備(街のバリアフリー化、高齢者が外出時に使えるベンチの設置、病院への無料送迎バスなど)
2. 人との繋がりを持つ(大きな声で挨拶、ボランティア・町会行事、仕事などの社会参加、多世代交流など)
3. 情報が欲しい、情報を伝える(どんな社会参加の場があるのかわからない)
4. 楽しいサークルづくり(どんなサークルがあるのかの情報開示、特技

を活かして講師としてのサークルへの参加)

5. 人材・組織のつながり作り(特に、グループを牽引して行く人を中心として)
6. 集まれる場所の確保(何をしてもまず場所がなければ始まらない)
7. 小学校の施設活用(もっと小学校を利用できないか?)
8. 健康意識を持つ(年に一度の健康診断、気楽に病院へ行く、健康についての知識を増進)

第2回のワークショップは、9月26日(月)に明市民センターで開催されました。第1回のワークショップで挙げられた課題を下の3つに整理して、課題を実現するにはどうすれば良いかを話し合いが進められました。

1. 高齢になっても出かけやすい豊かな環境づくり
2. 孤立せずに人とつながれる仕組みづくり・情報を必要な人に届ける
3. 参加したくなる楽しいグループ・人が集まれる場所を増やす

各々の1~3の課題についての提言は、下の図のとおりです。1の課題については、ご近所との声掛けや、子どもたちの下校時の見守りなど、大きな予算がなくても工夫次第で実現できそうです。また、このワークショップがきっかけかどうか分かりませんが、小金原地区では歩道脇のベンチの設置の取り組みがすでに始まっているとのこと。2については、行政と市民の自主的な活動との関わりについての提言となっています。3の課題については、子ども食堂、大人食堂、公園を利用したラジオ体操など、人と人が集うきっかけ作りについてアイデアが出されました。また、通いの場として空き家の利用、学校の空き教室の利用などが提案されました。



### 1. 「高齢になっても出かけやすい豊かな環境づくり」についての提言

隣近所で声を掛け合って一緒に出かける関係を広げる

子どもたちの登下校の見守りをする  
ことで外にきかけを作る

地域の居酒屋・スナックオープンガーデン(庭)などを利用して  
行きたい場所を増やす

コミュニティバス・グリス口の活用をもっと推進する

高齢者の視点に立って、歩きやすい歩道の整備ベンチの設置などを推進する

各地域で歩きやすい道、休める場所やトイレなどがわかるお出かけマップを作成して配布する

### 2. 「孤立せずに人とつながれる仕組みづくり・情報を必要な人に届ける」についての提言

行政にまかせるだけではなく、市民の自主活動として掛け、挨拶を行っていく

行政の中では縦割りになりがちなことも地域では横につないでいく意識をもつ

孤立しがちな男性に対し「男の会」で参加者の特技を引き立てる企画に取り組む

独居住民について、重点的に情報共有できる仕組みをつくる

通いの場(高齢者)と居場所(地域共生)の連携ができるようにする

市の職員に地域の現場に来てもらって、計画がどのように実行されているかを見てほしい

### 3. 「参加したくなる楽しいグループ・人が集まれる場所を増やす」についての提言

子ども食堂・大人食堂など食を通じたつながるきっかけづくり  
クリーンデーの活用  
公園のラジオ体操

特技を持っている人がそれを活かせる機会を増やしていく(人材バンク)

行政が把握していない居場所・通いの場の情報を集めて情報発信ニーズとマッチングする

空き家バンク、空き家の改修に対する補助金などの取り組みを推進する

学校の空き教室の活用、安く利用できる会場の情報を集めてマッチングする仕組みづくり

会場を提供してくれた所有者に対して電気代などの補助を出す

第3回ワークショップは、市民会館に会場を移して、第2回ワークショップでまとめられた提言についての発表が開かれました。松戸プロジェクトの主宰者のお一人である千葉大学予防医学センター教授近藤克則先生を前に、各グループの代表者がまとめ上げた成果を発表しました。



第3回ワークショップの風景